

古事記載其事作於後手布伎都都、可以證故呼山振爲夜末布伎也、其作山吹者、訓同而假借耳、雖欸冬山振其訓同、然其語原不同、混爲一者、誤源君以欸冬爲山吹、故不取輔仁於保波之名也、又按清慎公詩云、點著雌黃、天有意、欸冬誤綻暮春風、攷本草圖經引傳咸、欸冬賦序云、余嘗逐禽登于北山、于時仲冬之月也、冰凌盈谷、積雪被崖、願見欸冬、煒然始敷華艷、水經注引述征記云、洛水至歲末、凝厲、則欸冬茂、悅會冰之中、本草云、欸冬花、十一月採、花陰乾、藝文類聚引吳普本草云、欸冬十二月花黃白、證類本草引日華子云、十一月雪中出花、諸書所言略同、今日驗即然、未有欸冬至暮春乃開花者、以欸冬爲山吹也、其誤非昉源君、

〔大和本草花十二〕棣棠 園史及允齋花譜ニ、其形狀詳也、疑モナキ山吹ナレバ、コ、ニ詳ニ記サズ、遵生八牋ニ、モノセタリ、名花譜ニ、ワカ枝ヲ折テ挾メバ、生トイヘリ、八重ノ花尤賞スベシ、日ヲソル、日本ニ昔ヨリ此花ヲ賞シ、古歌ニ多クヨメリ、山州井手ノ山吹尤名アリ、今ハナシ、又ヒトエアリ、山中ニ生ズ、金碗喜水ト漢名ヲ稱ス、又白花ノヒトエアリ、黃花ニヲトル、是ハ棣棠ト一類ニ非ズ、實アリ、花ハ似タリ、順和名欸冬ヲヤマブキト訓ジ、朗詠集ニモ欸冬ヲヤマブキトス、皆アヤマレリ、萬葉ニハ山吹トカケリ、醱醱ヲヤマブキト訓ズルモ亦非ナリ、醱醱ハゴヤヲキ也、

〔牛馬問二〕或人の曰、前問に依て、山吹の事をおもひ出たり、朗詠集、欸冬を山吹と誤り、訓すること久し、近世醱醱をやまぶきの正字とす、此文字なるや、答て曰、欸冬もとより山ぶきにあらす、醱醱も又やまぶきにあらす、此物本草綱目に不載、事物紺珠といふ書に出、先輩多く此物をやまぶきと誤る、是は和名トキンイバラといふものなり、或人又曰、しからば山ぶきの文字は如何、曰、棣棠花なり、是又同名にして異物あり、混すべからず、

〔萬葉集二〕相聞 十市皇女薨時高市皇子尊御作歌三首略 中
山振之、立儀足山、清水、酌爾、雖行道之白鳴、